

# カトリック六甲教会 教会報

2010

11

No.467

## 「あなた方はキリストの体です」

ダニエル・コリンズ神父

キリスト教の信仰の中心に、受肉されたキリストがある。それについて皆さん、誤解はしていないだろうが、私たちは正しく理解をしているだろうか？少し考えてみよう。

創世記からはじまり現在に至る人類の歴史の中で、人間には人間を救えないことがわかっている。神だけが人間を救えるのだ。そのような中で、あわれみの神は御子を私たちに与えて、救ってくださった。御子が私たちの目の前におられたのはたった30年余りだけであつたけれども、美しい時間、素晴らしい物語として聖書に記録されている。そしてその最後に用意されていたのが十字架上の死、復活、そして昇天である。

受肉は30年間の試しであつたともいえる。そして受肉されたキリストは行ってしまわれた。ナザレのイエスではなく、キリストにはもう会うことができない。

しかし、復活のキリストは今なお生きておられる。複雑で難しい現代の社会にあって、復活のキリストは私たちの中でどのように生きておられるか？意識しているだろうか？

マタイ福音書25章に描かれているように、人々は問いかける。「主よ、いつわたしたちは、飢えておられるのを見て食べ物差し上げ、のどが渇いておられるのを見て飲み物を差し上げたでしょうか。」「主よ、いつわたしたちは、あなたが旅をされたり、裸でおられたりするのを見て、お世話をしなかったでしょうか。」「主よ、いつ、病気をなされたり、牢におられたりするのを見て、お訪ねしたでしょうか。」びっくりして問いかけるのだ。そして、答えはとてもシンプルだ。『はっきり言っておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。(25:40)』

復活のキリストは、人々の中にいらっしゃる。30年間受肉されたキリストもそこに息づいておられるのだ。誰でも出会う可能性がある。誰でも出会えるのだ。その出会いをつかみ、その出会いに揺り動かされ、私達は動き出さなくてはならない。その上に私たちの教会を建てるのだ。『こうして、正しい人たちは永遠の命にあずかるのである。(25:46)』

パウロは手紙の中でたびたび「あなた方はキリストの体です」と書いて人々を励ます。イメージとして捉えられがちだが、決して抽象的な表現ではない。神の、そしてキリストの体につながる自分を意識し、真剣にそれを受け取る。復活のキリストは生きていると信じて、生きていることを感じて暮らすのだ。

今でもある復活のキリストとの出会いをどういう風に活かすか？私も皆さんもそのチャンスをしっかりつかみ、深く考え、動き出しましょう。





## 【信 仰】

信仰とは、神の啓示に対する人間の答えである。それは神の啓示を人に与えられた生のすべてをあげて受け止めることに他ならないのである。

第二バチカン公会議啓示憲章5項「啓示する神に対して人は『信仰の服従』（ロマ 16:26, I コリ 10:5-6)を示す」。またロマ 10:17「信仰は聞くことから生じる」とも言う。つまり、信仰は、一種の神に対する礼拝行為（神に対する帰依）である。信仰によって人は、自分自身をことごとく全き啓示する神に委ねることである。

啓示する神に理性と意志を従わせる。（第一バチカン公会議の引用）信じるのは、神の言ったことが真実であることを認め、神にすべてを委ね、神を土台として生きることである。信仰が生じるためには、「聖霊の恵み」が必要である。それは心を神の方へ向かわす快さを人々に与え、人の心を開いて神の啓示を受け入れるように、私たちの心を高めている。

### （1）聖書における信仰

#### ① 旧約聖書

信仰の歴史は、アブラハムに始まる。かれは神の召命に素直に従い、神の約束に全存在を賭けて生きる。聖書では、アブラハムを信じる者の父、信仰者の鏡とする（シラ 44:20, ロマ 4:19）。イスラエルの歴史に対する神の深い関わり合いは、契約によって更に明瞭な形を取る。契約は、応答として神の言葉を聞いて、これに従うことを民に要求する（出エジ 19:3-9）。神の言葉を聞くとは、何よりも先ずこれを信じることにほかならない。それゆえ、契約は信仰を要求している（詩 78:37）。イスラエルの生と死は、信仰を堅持しながら、契約にどれだけ誠実に尽くすかにかかっている（申 26, 30:15-20）。

信仰の危機：信仰を破戒する偶像崇拜（ホセ 2:7-15, エレミヤ 2:5-13）、形骸化した祭儀（アモ 5:21, エレ 7:22-23）、武力による救いの追求（ホセ 1:7, イザ 31:1-3）、イスラエルの民の体験した誘惑であった。また、バビロンの捕囚は、イスラエルの不運を神の無能に帰するという誘惑である。

#### ② 新約聖書

「回心しなさい。福音を信じよ」とイエスが人々に呼びかけるのは、信仰である。新約の中の奇跡においても“信仰”が出てくる。イエスが女性に向かって「あなたの信仰が、あなたを救った」（ルカ 7:50）。マリアに向かって「信じるものは幸い、神の言葉が必ず実現される」（ルカ 1:45）。神にとって不可能なことはない“信仰を持って主のもとに来る。これは救いの原点である。

パウロの書簡へブライ人への手紙 11 章「信仰のすべて」が記される。

- ・ 信仰は望んでいる事柄を確信（保証）し、見えないことを確信（保証）する。つまり、希望していることを確信し、また保証する。

## (2) 信仰の特徴

- ① 信仰は危険にさらされるもの（誘惑に会う）  
信仰はいつでも危険にさらされて、持ち物にならない。“今信じます”これに対する反対現象：  
a. この世に続出する沢山の悪、それに対する神の沈黙。  
b. 人間が五感を通して確かめるものに大きなインパクトを感じる（見えるものと見えな  
いものの魅力の差）。  
c. 人間の自立への欲求。  
d. 啓示が真に合ったという裏付けにも関わらず「はいそうです」という飛躍がない。  
e. 心理学、社会学、自然科学の進歩によって、聖書に書かれたことが、すべて本当では  
ないとした。  
f. 信じているような内容は神秘。
- ② すべての確信よりも強い。それは神ご自身に基づくからである。
- ③ 共同体の信仰、交わりの信仰でなければならない私たちの信仰。  
ペトロとパウロから続いてきた信仰であり、同じイエスを信じている（通時的）。  
キリスト者になることは、2000年の宝を与えられる（信仰という賜物）。
- ④ 言葉でも宣言されるべきである。人間全体の行為、それは個人的でもあるし、共同体的、  
精神的、身体的でもある。  
一緒に信仰を宣言するので、信仰宣言を規定する必要がある。そして、すべての信仰宣言  
は、将来に向かって開かれている。洗礼こそ信仰の秘跡であり、すべては私たちに受動的  
に与えられていて、それによって生かされている。

## (3) 信仰行為はどのように生まれるか。

- ① 信仰の基礎は、神ご自身である、信仰するときは、自ら啓示する神ご自身である。
- ② 教会による啓示の宣教は、信仰の動機にはいるが主な動機は神ご自身。また神の言葉を述  
べる人々も間接的な動機・条件である。
- ③ どの能力に属した行為か。それは理性と意志、人間の意志は理性に対して信じようという  
命令を出す。自分の理性を神に委ねる。全人格的・人間的な行為が大切。
- ④ 恵みの役割とは、聖霊の恵みが自分の心を照らす光りであり、精神状態を変える。聖霊は  
愛の心を与えて、私たちの心を神の方向へ向ける。
- ⑤ 信仰の裏付けとなる証拠：“奇跡、預言”と言った“神の行いと言葉”を通して啓示をし、  
それによって判断できるとした。恵みが働かなくても、人間の理性によっておおよそ確認  
できる。神の働き、聖霊の恵みは、どんな時、どんな人にも働いているし、神の恵みはず  
でに信仰に向かう人の第一歩から始まっている。

主任司祭 松村 信也



## 2010 年度第 3 回小教区評議会議事録

■ 日 時：2010 年 10 月 10 日(日) 11:30～13:30

■ メンバー：松村主任司祭、川合評議会議長、詫副議長、志水副議長、各部会コーディネーター

### 1. 報告事項

#### ① 神戸地区評議会関連報告

##### ★神戸市民クリスマス 12 月 17 日(金)

- ・例年通り「キャロリング」の後、日本聖公会ミカエル教会で合同礼拝を行う。
- ・六甲教会からは、連絡委員として志水さん、ホッとコーナーは婦人会メンバーが担当する。

##### ★東ブロック合同堅信式 2011 年 5 月 29 日(日) 神戸中央教会

- ・合同堅信式は、池長大司教司式で行われる。
- ・まだ堅信を受けていない成人で、本人の希望があれば受けられる。

##### ★神戸地区大会 2011 年 6 月 5 日(日) 神戸海星女子学院

- ・実行委員長は当教会の川合さん。これから各小教区と具体的検討に入る。

#### ② 典礼部からの報告

- ・クリスマスミサは、12/24(金)16:30(子供と共に捧げるミサ)、19:00、21:00 で、19:00 と 21:00 のミサ前にキャロリングを行う。また 24 日(金)単独の歌集(600 部)を今年も作るが渡し切りとする。12/25(土)のミサは、7:00、10:00、主日のミサ 19:00。
- ・待降節からクリスマスツリーが祭壇横に飾られ、聖歌ボードが見えなくなるので元の先唱者の前に設置する。また馬小屋も昨年同様、聖堂入り口に設置する。
- ・クリスマスミサは駐車場が混雑するので、公共交通機関の利用の告知と当日の場内の交通整理を壮年会にお願いしたい。
- ・1/1(土)ミサ 0:00、7:00、11:00(19:00 はありません)、1/2(日)7:00、10:00。

#### ③ 社会活動部からの報告

- ・神戸地区社会活動委員会などへ参加の場合の交通費は、教会負担とすることが承認された。
- ・12/4(土)の「野宿者支援チャリティコンサート」(神戸中央教会)の出演者は 12 組いるが、聴衆が少ないので動員をお願いしたい。

#### ④ 財務部からの報告

- ・現在予算執行の中間期であるが、下期も計画的に運用して欲しい。

#### ⑤ 地区会からの報告

- ・現在ある 18 の地区を 10 の地区に編成替え(灘 4、東灘 3、その他の地区 3)する計画で、12 月の小教区評議会に提案し検討する。

#### ⑥ 行事部からの報告

- ・「納涼の夕べ」の反省会では、今年初めて地区会が担当を受け持ったが好評だった。反面、ステージへの観衆の移動が大変なので、イベントの場所など外向けへの工夫が課題。
- ・「秋のバザー」は、9 時のミサ後 10 時 15 分から開場し、14 時に終了する。テーマは「愛—あなたの思いやりを届けよう」11/6(土)テント張り 10/17(月)ミサ後、第 2 回実行委員会を行う。

⑦ 壮年会からの報告

- ・秋のバザーの手伝い（テント張りや場内整理など）をお願いしたい。
- ・10/17(日)11:30～ 「大いに語ろう会」はどなたでも参加できる。

⑧ オルガン委員会からの報告

- ・9/4(土)に行われた「感謝コンサート」は成功裡に終えられた。皆さまの協力に感謝。

⑨ 三日月会からの報告

- ・9/21(月)に行われた総会は、300名に案内を出し、96名の参加があった。これからの課題として、寝たきりや外に出られない人達とどうコンタクトするかが課題である。

⑩ 宣教部からの報告

- ・第2回「宣教を考える会」の申し込みが少ないので、各会とも参加を呼びかけて欲しい。

⑪ 施設管理部からの報告

- ・信徒会館のサッシの工事は完了。その他教会の玄関のライトやチャイムも仕様変更。

## 2. 協議事項

① パイプオルガンの運用規定

- ・一部文言の変更があったが（案）の通り承認された。

② パイプオルガンの活動予算増額申請

- ・吹子装置の更新に予算修正したい、との申し出に対し承認された。

③ 大聖堂の音響（スピーカー）について

- ・音響メーカーと専門家による現況チェックを含め今後の対応を早急に検討する。

④ 信徒会館リフォームについて

下記について承認された。

- ・図面に基づいて個々のリフォームのポイントを説明。
- ・資金は教会会計特別目的積立金から充当する。
- ・工期は秋のバザー終了後から来年3月初旬までの期間を考えている。



## 「信徒会館リフォーム・プロジェクトチーム」からの報告

信徒会館のリフォームにつきましては、今年2月13日の小教区拡大評議会で「信徒会館の有効活用・改善とリフォーム」というテーマで討議され(教会報3月号参照)、その結果、5月より「信徒会館リフォーム・プロジェクトチーム」(チームメンバーは教会報5月号参照)が発足しました。その後、松村神父様とチームメンバーによる5回にわたる会議でリフォーム案を検討し、7月と9月の2回の小教区評議会に上申した結果、下記の項目について承認を得ましたので、皆様にご報告申し上げます。

チーム長 蛭田

### (1) リフォームの基本方針

- ① デッドスペースの有効活用により信徒の高齢化に適したスペースを確保する。
- ② 種々の目的に対応できる多目的スペースを確保する。
- ③ 安全・セキュリティ面においても改善する。(特に夜間対応)
- ④ 延床面積は変更せず、後々若い世代に負債を残さぬよう内部の改装にとどめ、コストを抑える。

### (2) リフォームのポイント

#### ★1階スペースの改善

- ・事務所は現在の場所から北側ロビーに移転する。
- ・現在の事務所後にロビーを設け、更に奥にある和室をなくし、応接と和室の壁を取り除いて、スペース拡大をはかり、多目的室に変更する。
- ・男女トイレ、2階につながる階段の改修を行う。

#### ★2階スペースの改善

- ・中高生室を2分し、教会学校リーダー室をあらたに設ける。
- ・2階の厨房をなくし、作業室を移転する。
- ・作業室前に倉庫を新設する。
- ・図書室は多目的室としても利用する。
- ・作業室後は司祭室(2)とする。

#### ★その他

- ・現在の教会学校リーダー室は多目的(主に冠婚葬祭用)ルームに変更する。

### (3) 工事期間

2010年11月中旬～2011年3月上旬予定



## 地区世話人会のご報告

地区会コーディネーター 橋岡

10月24日(日)10時のミサの後、約50名の世話人の方々および松村神父様、評議会役員、地区会コーディネーターが出席し、本年度第2回の地区世話人の全体会が開催されました。

開会のお祈りの後、神父様からこれまでの信徒名簿の確認作業に対するお礼の言葉がありました。世話人の方々の大変な努力によっていろいろなことが明らかになり、不明者なども確定せずいふんと名簿の確認作業が進みました。またお一人でお住まいの高齢者の方や高齢者のみでお住まいの方々、病院や施設などにいらっしゃるの方々についての情報も寄せられ、それに基づいて各奉仕者の方々の訪問も行われる予定です。これからの小教区の目指すべき姿に向けて今後も進んでいきたいとのことでした。お力をいただきました世話人の皆様には本当に感謝いたします。

今回の世話人会の大きなポイントは地区分けの変更についての議題です。前回の世話人会でコーディネーターから提案があったことに基づき、神父様を中心に評議会役員、コーディネーター、またいろいろな方のご意見を伺って話し合ったことがはっきりとした形で提案されました。まず現在の18の地区を考えなおし、灘区4つ、東灘区3つの7つの地区に分け、遠方の地区は特別地区として3つに分けます。各地区には1名の地区長と2名の副地区長を置きいろいろなことを進めていくこととなります。また、地区ごとに連絡網を整備し教会からの連絡は地区連絡網を通して行われるという形にいたします。

この提案を受けて世話人の皆さんからも神父様が昨年説明してくださった「教会の基礎となる地区会の姿」を実現するために具体的にいろいろと貴重なご意見をいただきました。そして今次提案させて頂いた地区分け案に賛同をいただきました。なお、地区会の新体制スタートの来年度を“移行期間”とするかどうか、あるいは地区会がこれから担う教会行事や各種お手伝いについてどうするかについては更なる議論検討が必要ということとなりました。今後12月の小教区評議会で正式に提案され議論されることとなり来年度の実現を目指します。これからの動きにつきましては決定後に全信徒の皆様教会報などで詳しくお知らせいたします。決定されました折には皆様にも是非ご協力いただきたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。



### <行事報告> ∞∞∞∞ 本年度の教会大掃除を終えて(10月9日) ∞∞∞∞

風雨の強い中、9時30分から約2時間大掃除を決行しました。開始時間の頃は参加者は3名で、今日は掃除ができるかと危ぶまれましたが、時間経過と共に人数は増え、最終的には30数名となり、ご協力いただきありがとうございました。神に感謝。松村神父様は初めから終わりまでご参加頂き、脚立に昇って高所の掃除までして下さいました。お若いですね。

人数の関係で掃除箇所を大聖堂に集中して、ガラス磨きとホコリ取りにかかりました。

- ・ロビー聖堂入口の格子扉
- ・イグナチオホールのドアスリット、ガラス両面磨き
- ・ロビー天井の大型欄間のホコリ取り
- ・堂内のステンドグラスのホコリ取り
- ・十字架上のイエス像のホコリ取り
- ・十字架の道行きの額のホコリ取り

今回の掃除で気のついた改善点は、

- 1) 集合時間を知らせる。
- 2) 来年度からは雨天でも決行を原則としたいので、年間行事予定表に明記する。
- 3) 掃除箇所が参加者に分るように、案内係(腕章着用)が人員配分を考慮する。
- 4) 掃除のダブリ、抜けをなくするように工夫する。

皆様のお気づきの点がおありかと思えます。ご意見お寄せ下さい。年に1回の大掃除です。万障繰り合わせの上、実行したいものです。

今年度は無事に終わることができてありがとうございました。(施設管理部 K. Y)



## <行事報告> ∞∞∞∞ 「大いに語ろう会」実施報告(10月17日) ∞∞∞∞

昨年も実施しました『大いに語ろう会』を今年も実施しました。参加者は15名(三日月会5名、60歳代9名、50歳代1名)と3人の神父様というちょっとさびしいものでした。

初めに壮年会榎木会長の挨拶、コリンズ神父様先唱のお祈りに続き、司会の壮年会塚崎氏からこれから行う同氏推奨の齊藤孝著『偏愛マップ』(NTT出版)に基づく自己紹介(ゲーム?)の実施要領説明がありました。ゲームの事前準備として各自、用意された用紙に『私の好きなこと・もの』例えばスポーツとすると次には野球とかサッカーとかの種別、次にそれを観るのかするのか、野球なら好きな球団・好きな選手というように嗜好をどんどん特定し、いろいろな分野で特に好きなもの・ことを記入していきます。辞書的には偏愛は特定の人を愛することとか、えこひいきの意味になりますが、これは自分自身を知ってもらうため開発された名刺のようなものです。それを基に二人一組でそれぞれ書いたものを見せあいます。そして共通点あるいは興味をひいた事項を中心に会話を発展させます。通常の自己紹介よりも書いたものを基にしていること、好きなことという中心話題があるということで、話が進め易いと思いました。教会に来ていても挨拶程度で済ましてしまうことが多いと思われませんか?

いつも親しい人との接触だけになっていて、ミサ中の『平和の挨拶』はするけれどもそれ以上にはお互いに立ち入らないという関係の人は多くありませんか?

教会のいろいろな行事にかかわりながら、互いに知り合うことも勿論ですが、こういうゲームを通じて日頃接触のない人とも互いに知り合うことはつながりを広げていくうえでも大いに意義があると思いました。やってみるとなかなかおもしろい。私自身も4人の方と書いたものを見せて話をしました。はるかに年上の先輩の方がブログをやっていたりしゃったり、車横転で奇跡的に助かった話とか、お年を感じさせない元気さと日頃思っていたら野球をやっておられたとか、神父様に至っては一番好きなことは司祭職と書いてあって感服したりとか……。食事時になったのでそれ以上の方とは交換できませんでしたが、1人6分の持ち時間は短く感じられ、また続きをやりたいなと思わせるものでした。関心ある方はぜひお試しあれ。

ここで安芸神父様の乾杯の音頭で食事に入りました。始めに3人のリフォーム委員の方から、工期は11月半ば過ぎ～翌年3月初めまでの信徒会館リフォームの趣旨と日程の報告とそれに伴う協力依頼がありました。それから、2つのテーマでお互いの考えを述べ合いました。テーマ1は「日本で宣教がなかなかできない実態」についてでした。お隣の韓国の10分の1という信徒数にそれは表れています。「頭で信仰し、行動は一般の人と変わらない」との発言から始まり、「教会とは何なの?」「まず挨拶ができなければ」温かい人間関係の教会。地区会のあり方まで含め意見が飛び交いました。松村神父様からは、「宣教は無理強いするものでなく、例えば職場・地域に於いても



(聖霊の助けにより) 信徒の持つ何か違う部分に感化されて入門される方もある」と、ご自身の体験も踏まえて発言がありました。テーマ2は「六甲教会内にいろいろな会・サークルがあるが信仰という面から見てどう考えればよいか?」でした。教会はミサ・典礼を中心とすること。人同士の交流のきっかけとして共通の話題・趣味も必要なこと。開かれた教会という趣旨から信徒が多数ということを前提に一般の方も参加されるサークルはあってよい。但し、教会行事(特に年間計画の示されているもの)は会場とその使用時間について優先されることは再確認されました。このテーマに掛けて年間行事が多すぎるという声があり、それが役員の成り手がなかなかない原因にもなっているという発言もありましたが、行事はそんなに多くはないという発言もありました。両テーマを締めくくって、川合評議会議長からお話があり、『やっぱりつながりを大切にしなければならない』ことを強調されました。

最後に、青年の主張にあやかって『壮年の主張』を各自カードにし、それを貼り付けてコピーし、各自持ち帰ることとしました。さてどこまで実行できるでしょうか?最後に 松村神父様の先唱で天使祝詞のお祈りをし、散会となりました。参加者は少なかったですが、『こんなに話したことはなかった』との声も聞かれ、白熱した論議もあり、成果はあったと思います。(壮年会 飛石)

---

## 📖 図書紹介

### 「イエス・キリストの生涯を読む」

小川 国夫著 (河出書房新社)

内容は1995年のNHK人間大学のテキストだと書いてありました。僕もその一人ですが、著者は一般信徒にはあまり知られていないようです。信者であり、フランス文学に詳しい新共同訳聖書の編集にも携わった作家なのですが……。

この本は新共同訳に不満であった小川が自分なりの翻訳を問おうとしたのではないかと思います。彼の訳も解釈も一人の私見に過ぎませんが、日本語の作家でありフランス語にも通じていた彼は、翻訳とはどういうものかを問いかけているのではないかと思います。本書の序文で著者は、聖書は面白いと書いています。わたしは新共同訳を読んでも面白いとは感じませんが、本書の中に散在する著者の訳では聖イグナチオの言う「現場の想設」ができるように思います。新共同訳や特に最近の日本語の典礼文は、日常の言葉、口語体ではありながら日常の言葉ではない。自分の言葉ではなく、どうしても他人事になってしまいます。単語を置き換えただけでは翻訳にならない、原典とは全く異質の日本語の場合、特に必要な配慮だと思います。(ヨハネ 三好)

## ∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞ 各部だより ∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞

### 📖 青年会

11月7日(日)10:15～ チャリティバザー

※ポップコーンを販売しますので、  
お手伝い下さい。

11月14日(日) お休みです

11月28日(日) 10時ミサ後、定例会  
第5会議室にて

### 📖 社会活動部

11月5日(金)10時ミサ後 連絡会



## 《 お知らせ 》

### ★社会活動部より★

11月13日(土) 10:00 炊き出し

小野浜グラウンドにて配食や、おじさん達のお話し相手だけでもOKです。

11月14日(日) 10時ミサ後 車椅子の操作講習会(イグナチオホール)

高齢化する社会において、車椅子を介助する機会も増えています。ちょっとしたコツや、注意点などわかりやすく講習して頂きます。どなたでもご参加ください。

11月18日(木) 14時 ベタニアの集い(イグナチオホール)

聖体拝領式&茶話会

11月21日(日) 10時ミサ後 ミニバザー(イグナチオホール)

お弁当・食料品・手作り作品等の販売

11月26日(金) 9:30 ともしび ケーキづくり



## みんなの広場

### 今年も静岡から六甲教会のバザーにやってくる

#### “ラルシュかなの家の仲間たち”

ラルシュかなの家とは、静岡にある知的ハンディを持つ仲間のためのコミュニティです。ジャン・バニエさんが1964年に設立し、現在29カ国122コミュニティに広がっています。仲間たちはゆっくりではありますが、農作業や無添加せっけん作りを一生懸命毎日行い、わずかながら自分達の生活を支えています。私たちは、2年前から仲間たちがつくる天然せっけんの販売を毎月第3日曜に開催されるミニバザーで販売し、彼らの活動を支援しています。

昨年のバザーでは“ラルシュかなの家”のスタッフ1名と仲間たち3名が、毎月私たちに販売をお願いして申し訳ない、自分達も一緒に売りたい、そして、六甲教会がどんなところか見てみたい、



畑で土ふるいを一生懸命する

とバザー前日静岡からやってきて私たちの家に泊まりました。子どものように純粋な彼らと一緒に食卓を囲んだ時間は、本当に愉快で平和に満ちた至福の時でした。

かなの家のせっけんは、天然植物油、動物油から作られたもので人体に安全な製品です。製品は台所用液体せっけん、粉せっけん、シャンプー、リンス、ボディソープ、麦飯石せっけん等々です。

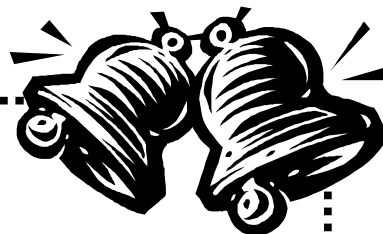
私たち家族は特にシャンプーとリンスを愛用しています。初めて天然シャンプーを使用し

た場合髪のキシム感じがすることがあります。それは長年合成洗剤シャンプーを使用していたため、キューティクル（髪の毛の表面のうろこ状になっている部分）が傷んでいたことが原因だと思われます。1か月位天然の自然派シャンプーとリンスを使用しているうちにキシム感じはなくなってきました。

せっけん以外にも仲間の1人、政一（まさいち）さんが描いた板絵やカード、葉書（最後の晚餐、クリスマス主のご降誕、聖霊降臨などが描かれたもの）の販売も行っていきます。彼の描いた絵からは、なんとも言えないやさしさとあたたかさが伝わってきます。洗礼のお祝い、クリスマスプレゼントなどに、この板絵を買ってくださる方もたくさんいらっしゃいます。

今年も仲間たちがやってきて手作りの品をたくさん販売致しますので、皆さんぜひ、販売ブースにお越しいただき、仲間たちの活動支援をお願い致します。

（井川 直哉 & 伸子）



## 2010 年クリスマスと

### 2011 年年始のミサの時間について

典礼部

#### 12 月 24 日(金) 夜半のミサ

16 時半、19 時、21 時 海星病院 17 時

昨年と同様、19 時のミサ前と、21 時のミサ前に

聖堂内でキャロリングを実施します。

#### 12 月 25 日(土) 主の降誕

7 時（早朝のミサ）、10 時（日中のミサ）

この日の 19 時ミサは、「聖家族」のミサです。

#### 1 月 1 日(土) 神の母聖マリア

0 時、7 時、11 時

この日の 19 時ミサ（主の公現）は、ありません。

#### 1 月 2 日(日) 主の公現

7 時、10 時



### 広報部員のつぶやき

ようやく季節が暦に寄り添ってきたと思ったら、一気に追い越し、早くも冬の気配です。体がついていきません。皆様もどうぞ自愛下さい。

そうして、もはやクリスマスのお知らせをする時期なのですね。あわててスケジュール帳を見直し、今年一年を振り返っています。何ができたか？ 誰と出会ったか？ キリストに出会った時をしっかりとつかんでいたか？

★♡★

教会報 12月号の発行は、11月28日(日)です。

編集会議は11月21日(日)です。

記事原稿は、11月14日(日)正午までに信徒会館  
受付へご提出願います。 (広報部)

<http://www.rokko-catholic.jp>

カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会

〒657-0061 神戸市灘区赤松町3-1-21

電 話 078-851-2846

発行責任者 松 村 信 也

編 集 広 報 部